

修道中学校入学試験 概要と今後の予定

I 2020年度入試結果概要

①受験者数・合格者数

	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
募集定員	276名	276名	276名	276名	276名
志願者数	931名	902名	995名	1056名	983名
受験者数	922名	868名	970名	1034名	946名
合格者数	534名	532名	532名	543名	532名
補 欠	80名	109名	113名	111名	109名

※「補欠」については、3段階に分けた順位をお知らせしています。

②テスト教科・時間・配点・受験者平均点・合格最低点(総点)・合格者平均点(総点)

教科	国語	社会	C.T.	理科	算数	総点
時間(分)	50	40	50	40	50	
配点	125	100	100	100	125	550
2020平均点	63.6	60.6	75.7	69	82.1	350.9
2019平均点	76.5	67.8	76.7	63.2	80.5	364.7
2018平均点	67	58	86.8	52.5	78.3	342.6
2017平均点	69.7	71.2	86.9	52.7	51.4	331.9
2016平均点	73.8	55.6	79.9	52.5	75.8	337.5

	合格最低点(総点)	合格者平均点(総点)
2020年度	346点	393.4点
2019年度	354点	405.0点
2018年度	344点	389.8点
2017年度	335点	370.3点
2016年度	335点	382.9点

(合格発表段階の点数)

Ⅱ 2020年度入試結果分析

①入試結果について

今年度の入試は、昨年と比べて理科、算数の平均点が上がり、国語、社会が下がりました。近年の傾向ですが、受験生全体の得点に幅が出ているようです。

②志願者数について

昨年より29名増加の931名の志願者がありました。

③合格者数について

合格者は534名で、ほぼ昨年どおりです。

このところ成績上位者の入学率が上がってきています。今後とも、一人でも多くの志願者に本校を選んでいただけるように努力していきたいと思っております。

④補欠者数について

補欠者数は80名です。補欠者には成績により3段階に分けた順位をお知らせしています。今年度入試では、「補欠1位～23位段階」、「補欠29位～51位段階」、「補欠56位～78位段階」の3段階に分けています。

本校では、合格者からの入学予定者数が定員に満たない場合、補欠者を成績順に繰り上げ合格の候補者とし、その中で入学の意志がある方を合格としています。

補欠からの合格者数は年度によって変動があります。2019年度は11名が最終的に繰り上げ合格となっています。

Ⅲ 講評(科目ごと)

*国語

・受験生の出来は？

漢字の読みはともよく出来ていました。書き取りや慣用句の出来はあまりよくありませんでした。

記述については、出来・不出来の差が大きく分かれました。誤答の答案には本文の趣旨を理解できていないものが目立ちました。

・問題の難易度・特徴は？

難易度は少し上がりました。

今年度の問題傾向としては、全体的に「他者を思いやることの重要性」を問いました。

クリエイティブな問題としては、説明文の問五の記述で、「具体的な事例を自分で想定して書く」という問題を出題しました。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

ほとんどの受験生が、試験問題に真っ向から向きあって、真剣に解答にたどりつこうという姿勢が見られました。

記述問題において、誤字、脱字、主述の不一致などがかなりありました。普段から文章をチェックしてもらえそうな環境があると望ましいと感じました。

・受験生への要望・合否のカギは？

まずは、本文の論旨をつかむことが大切です。

次に、その論旨を「自分の言葉でコンパクトにまとめる力」が要求されます。

学校で習った国語の単元や、問題集などで読んだ文章などを、食事の時間に家族に説明したり、短い文章にまとめて誰かに読んでもらったりということを日常的に反復すれば、確実に合格できます。

・問題解説

- 1 漢字の書き取りと読みの問題です。語彙に関する能力を重視しています。
- 2 小島俊明の『ひとり、考える 哲学する習慣を』から出題しました。人と人が接する際の「想像力」に関する評論です。新大学入試共通テストの「二文対照問題」に通ずるものとして、本文と引用文の相関関係を捉えさせる問題を出題しました。更に、「想像力の大切さ」というテーマが現代のネットリテラシー等における重要課題であると考え、出典に選定しました。
- 3 八重野紇摩の『ペンギンは空を見上げる』から出題しました。将来に大志を抱き、幼い頃から努力し続ける小学6年生の少年が、周囲の人々との関わりの中で、成長していく様子が描かれている点、また、「小説」でしか表し得ない仕掛けが施してあるという点から出題しています。出題上、特にポイントとなったのは、「鳴沢」の「自分勝手な思い込み」を何とか改善してあげたいという主人公「ノリ」も同様に「自分勝手な思い込み」をしていたということに気付かされる、という二重構造の部分で、この箇所が理解できているかどうかを主眼に出題されています。

*社会

・受験生の出来は？

まずまずの出来でしたが、昨年に比べ平均点が少し下がって60.6点となりました。

・問題の難易度・特徴は？

全体的にやや難しかったようです。今年度は特に図表や文章を読み解く力が要求されました。記述力も問われています。現在の社会の変化や課題についても問いました。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

基礎的な内容についてはまずまずの出来でしたが、文章を記述する問題や時事問題で差がつかれました。漢字間違いも多く見受けられました。

・受験生への要望・合否のカギは？

根気よく基本に忠実な取り組みが必要です。基本的な事項については、きちんと漢字で書けるようにしましょう。新聞やニュースに触れ、現在の社会の変化や課題についても広く関心を持って下さい。よく耳にする用語についても、それが具体的に何を意味するのかを確認しておきましょう。さらに、文章をわかりやすく書く練習もしましょう。

・問題解説

- 1 地理に関する基本的な知識をふまえたうえで、図表を正確に読み解くことができるかどうかを問いました。日本の国土と人々の暮らしについて多角的にとらえる視点が要求されています。
- 2 現在の私たちの暮らしは、過去の人々の営みがあってこそ成立しています。今の時事的な問題に過去の出来事などのようにかかわっているのかという視座はとても大切です。そのことをふまえ、基礎的事項を問いました。
- 3 日本の政治や経済に関する基礎知識とともに、現在の社会を全体的な視野からしっかりとらえているかどうかを問いました。よりよい社会を実現するためには何が必要かを考えながら、新聞を読んだり、ニュースを見たりすること

が大事です。長文の読解力も問いました。

* C. T.

・受験生の出来は？

平均点は昨年度よりも約1点下がりました。作業量が多く、もっと平均点は下がるかとも思いましたが、受験生のみなさんの能力の高さに驚かされました。

・問題の難易度・特徴は？

全体的に難易度は高くないですが、作業量が多いので受験生のみなさんは疲れたのではないかと思います。縦書きの文章を横書きにして3箇所部分に当てはまる語句を答える問題で、3箇所目の正答率がかなり低かったです。

クリエイティブな問題は、クラスでの話し合いで出た意見について自分が賛成か反対かを表明し、その理由を答えるものでした。答案のなかには、賛成の理由を答えるのに反対の理由になってしまったものや、理由の文章として意味が通らないものなどが少なからず見られました。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

5W1Hを聞き取る問題の正答率が高かったため、これらの情報を聞き取る能力が高いみなさんが多いことがわかりました。

解答として当てはまる漢字を文章中から書き写す問題で、一画足りないものや雑に書いてある答案が散見されました。また、記号で答える問題を数字で答えたり、「組」を聞いているのに「階」を答えたりもありました。「丁寧に作業をすることや、「指示に従って答える」ことを日頃から意識して、練習を積み重ねてきたかどうかが問われました。

・受験生への要望・合否のカギは？

受験生のみなさんが修道中学校に入学し、学校生活のなかで出会う場面を想定して、いくつか出題しました。CTの問題を解く力は、(与えられた指示通りに作業することや、会話の中から必要な情報をメモすること等)小学校での生活のなかで求められることに、普段から意識して取り組むことで培われます。日常生活での「意識の高さ」が合格点を取る秘訣と言えるでしょう。

・問題解説

1 質問の答えとして最も適当な答えを選ぶ問題です。

5W1Hをちゃんと押さえて答えるかを試しました。

2 文章の書き写し問題です。

縦書きの文章をルールに従って横書きにする作業が丁寧にできるかを試しました。指定されたマスに入る語を調べるのに、工夫ができれば、作業は早く済みます。

3 クラスの文化祭での出し物を決める話し合いを聞いて答える問題です。

話し合いを聞いて、その意見の内容を理解できるかを試しました。また最後の問題で、自分の意見を書いてもらうクリエイティブな問題にしました。

4 授業で行われた小テストの採点を行う問題です。

模範解答と途中で追加される採点の方法に従って、速く正確に採点ができるかを試しました。

5 入学式とオリエンテーションでの担任からの話を聞いて答える問題です。

かなり長い担任からの話を聞いて、重要な部分をしっかりとメモをとって理解できるかを試しました。

6 与えられた規則性をもとに解く問題です。

指示された通りの作業をして規則性を理解して、問題が解けるかを試しました。

*C.T.の音声については[こちら](#)をご覧ください。



*理科

・受験生の出来は？

問題数はやや多めでしたが、例年と比べて計算問題が少なかったこともあり、やや高い平均点となりました。

・問題の難易度・特徴は？

計算問題が減少し、基本問題も多かったため、例年よりもやや易化したようです。選択肢問題では、数を指定せず、複数の解答をすべて選ぶ形式の問題を多く出題しました。また、記述問題も短文ですが、例年よりも多く出題しました。大問3は解答が1つではない問題を含み、大問2の鳥の肺のしくみは、知識とは無関係で、説明文と図から思考する問題として出題しました。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

選択肢問題で、複数の解答をすべて選択する問題において正答率が低いようです。正確な知識および判断が要求されます。文章で答えるべき問題を単語で答えている解答や、説明が不十分な解答が多く見られました。

・受験生への要望・合否のカギは？

基本問題は確実に解答することが求められます。また、単に記憶や解法のテクニックを覚えるのではなく、日頃から身近な自然現象に興味・関心を持ち、探求しようとする気持ちをもちながら学習することが大切です。

・問題解説

1 教科書に掲載されている実験を基に出題しました。身近な金属の性質や金属と水溶液の関係について問い、物質についての基本的な理解度を図りました。また、物質の量的関係を理解し、数値を使って科学的に問題を解決する力を問いました。

2 人のからだのしくみに関する基本的知識を問うとともに、肺のしくみと呼吸との関係や人の肺と鳥の肺の違いを問題文から読み解き、そこから考察する力をみましました。

- 3 天気の変化および河川の増水を題材にして、河川のはたらきについて基本的知識を問うとともに、データを読み取り分析する能力をみました。
- 4 ふり子の問題では、ふり子に関する基礎知識を用いて、応用的な問題に対応できる力があるかをみました。また、電気回路の問題においては、かん電池と豆電球の明るさの関係が理解できているかを問いました。

*算数

・受験生の出来は？

今年度の平均点は82.1点(65.7%)で、昨年度の80.5点(64.4%)から少しだけアップしました。標準偏差も昨年度より下がり、得点のばらつきは減りました。125点満点の受験生が3名、101点以上の受験生が192名で全体の20.8%を占めました。平均点は昨年度並みかやや下がると予想していたので、出来は良かったと思います。

・問題の難易度・特徴は？

1 は、正答率が7割を超える問題はばかりで、基礎的な知識はしっかり身につけている受験生が多いと感じましたが、(6)の正答率が3割と振るわなかったのは意外でした。

2 は、(2)の展開図の問題で差がつかまりました。(4)の立体感覚をみる問題は非常に出来が良かったです。

3 は、(1)は予想通り表現が稚拙なものが多かったです。

4 は、問題が進む毎に正答率が下がり、どの問題までできたかで差がつかまりました。

5 エが正答率が1割を切り、全ての問題の中で最も出来が悪かったです。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

2 の(2)の展開図の問題で、辺を2等分した点なのか4等分した点なのかを読み取りにくい解答が散見されました。また、消しゴムで消しているのかどうか分からない解答や0か6か半別しにくい解答があったのは残念でした。

・受験生への要望、合否のカギは？

まず、計算力とともに基礎的な知識が確実に身につくように、しっかり問題演習をしましょう。そのときに必要なものは「なぜそうなるのか」、「どうしてそうなるのか」と深く掘り下げる姿勢です。この積み重ねで、知らず知らずのうちに応用力や発想力が身についていきます。また、問題の解き方を友達に分かるように説明ができるようになると、表現力も鍛えられます。

・問題解説

計算力や基礎的な知識はもちろん必要ですが、基本を深く掘り下げて理解し、その基礎的な知識を関連づけて応用して展開していく力を求めています。

1 小問集合。(1)は計算問題、(2)以降はいろいろな算法や図形の問題です。基本的で取り組みやすい問題を集めました。迅速で正確な計算力が問われます。

2 (1)は体積の変化を読み取りグラフを完成させる問題、(2)は立方体の展開図の問題、(3)は規則性をいろいろな見方で捉える問題、(4)は立体感覚をみる問題です。どの問題も条件設定に応じた算数的応用力が問われる問題です。

3 円周率に関する問題です。円周率を表面的な理解ではなく、根本からきちんと理解できているかをみる問題です。(1)は簡潔に的確に文章表現できる能力が必要です。

4 速さに関する問題です。問題文をきちんと読み取り、式として表現し、計算する問題です。

5 時計の問題です。時計の仕組みをきちんと理解していないと解けません。対話文から問題を解くのに必要な部分を的確に読み取る能力が必要です。

IV 今後の予定

第1回登校日 …… 2月2日 日曜日

第2回登校日 …… 3月8日 日曜日

入 学 式 …… 4月7日 火曜日

